

1 単元のデザイン

育成を目指す資質・能力

【総合的な学習の時間の見方・考え方】

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること。

【知識及び技能】

・防災・減災の実現や世界的諸課題の解決に向けた持続可能な方法について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

・調べた内容を整理し、根拠を明らかにしながら考えを表現する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】

・防災・減災の実現や世界的諸課題の解決に向け、主体的・協働的に貢献しようとする態度を養う。

単元（題材）について

【単元を貫く問い】「豪雨災害を経験した私たちだからこそできる取組とは何だろう。」

本単元では、防災教育の一環として豪雨災害に対する備えや持続可能な開発目標（SDGs）に関する取組を題材として取り上げる。平成30年7月に起きた西日本豪雨災害を教訓として、災害に対する備えを学び発信するため、今年の梅雨の特徴を考え、実生活における具体的な対策を考える学習が展開できる。また、豪雨災害が多発する根本的な要因と考えられている「地球温暖化」を防ぐため、世界的な取組であるSDGsに関心を持たせ、学びをさらに広げていくことが期待できる。さらにSDGsの取組を知識として知っているだけに留まらせず、実生活における具体的な行動につなげ、防災・減災のためにより深い理解と貢献の姿が期待できる単元である。

生徒について

- ① 西日本豪雨災害の経験から、防災に対する思いは大きい。防災についてしっかり考えよう、防災の取組をしっかりしていきたいという意欲がある。また授業の振り返りやワークシートの内容から、防災学習を地球規模の問題として捉えるなど、さらに広い視野で考えている生徒もいる。
- ② 調べたことを発表することに意欲的に取り組める生徒が多い。しかしながら、令和3年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙「(32) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」に対する肯定的な回答は54.6%だった。調べた内容をもとに自分の考えを導き出すことや話の流れをうまく組み立てることに苦手意識をもっている生徒が多いと考えられる。
- ③ 令和3年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙「(25) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対する肯定的な回答は54.5%だった。自分たちの実生活において、調べて分かったことから、地域社会のために具体的な実践をしようという意識が低い傾向にある。

指導の工夫について

- ① 西日本豪雨災害や今年の雨の特徴など「自分と関わるの深い出来事」と「世界的な諸課題」とのつながりを意識させることで、学習の広がりをもたせる。それによって、学習への意欲を高め、生徒の主体的な学習を引き出す。
- ② 自分たちが調べた内容からどんなことが予想できるかを、ワークシートやグループ活動を通じて考えさせる場面を継続的に設定する。
- ③ プレゼンテーションの1シートごとを確認するだけでなく、全体を俯瞰して確認させるようにする。
- ④ 自分たちが考えた取組に実際に取り組ませることを通じて、その体験や実際のデータに基づいて成果や課題を検証させる。それを生かして、再度取組を考えて実践していくという学習の流れとする。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①災害や防災に関する知識や備え方を理解している。【知①】 ②世界的な諸課題の解決に向けた持続可能な方法について理解している。【知②】 ③日常生活の中で取り組めるSDGsの方法について理解している。【知③】	①相手や目的に応じて調べたことや分かったことを整理し、自分なりの考えを表現している。【思①】 ②整理した内容をもとに根拠を明らかにしながら作品を作成している。【思②】 ③地域社会に提案したSDGsの活動に取り組んでいる。【思③】	①見いだした課題に対して自分なりに考え、意見を伝えようとしている。【主①】 ②目的に応じて情報を集めようとしている。【主②】 ③防災・減災の実現や世界的諸課題の解決に向け、主体的・協働的に貢献しようとしている。【主③】

3 単元の計画 (35 時間)

次	時	学習内容	評価			
			知	思	主	評価規準 (評価方法)
第一次	1	課題の設定 ・今年への災害への備えをどのように準備していくか考える。 ・「今年の梅雨の特徴」や「西日本豪雨災害」に関するアンケートの結果より、伝えるべき内容を考える。 課題① 今年の災害対策を発信しよう！			○	見いだした課題に対して自分なりに考え、意見を伝えようとしている。(行動観察・ワークシート) 【主①】
	2	情報の収集 ・「今年は例年より梅雨入りが早い」という言葉から内容の調べ学習を行う。			○	目的に応じて情報を集めようとしている。(行動観察・ワークシート) 【主②】
	3					
	4	整理・分析 ・集めた情報をもとに、今年の梅雨の特徴について考える。 ・今年の梅雨の特徴をもとに、災害に対する備えを考える。 ・調べた内容がより分かりやすく伝える発信の方法をグループごとで考える。	○			災害や防災に関する知識や備え方を理解している。(行動観察・ワークシート) 【知①】
	5			○		相手や目的に応じて調べたことや分かったことを整理し、自分なりの考えを表現している。(行動観察・ワークシート) 【思①】
	6	まとめ・表現 ・各グループで考えた発信方法で内容をまとめる。 ・模擬発表をする。 ・発信内容に修正を加える。			○	整理した内容をもとに根拠を明らかにしながら作品を作成している。(作品) 【思②】
	7				○	見いだした課題に対して自分なりに考え、意見を伝えようとしている。(行動観察) 【主①】
	8	実行 ・作成したものを、防災集会や校内掲示等で発信する。			○	防災・減災の実現に向け、主体的・協働的に貢献しようとしている。(行動観察) 【主③】
	9					
	10	振り返り ・作成する上で気を付けた点や、学習を通して自分自身が気付いた点などをまとめる。 ・次なる課題に向けて、どんなことを学びたいかまとめる。	○			災害や防災に関する知識や備え方を理解している。(ワークシート) 【知①】

第二次	11	課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次の中で「豪雨災害と地球温暖化の関係」について調べた生徒について触れる。 ・ 「豪雨災害と地球温暖化の関係」について知る。 ・ 地球温暖化を止め、豪雨災害を防ぐ方法や世界的な諸問題の解決について考え、発信内容・方法を考える。 			○	・ 見いだした課題に対して自分なりに考え、意見を伝えようとしている。(行動観察・ワークシート) 目①	
	課題② 世界的な視点に立って、豪雨災害を防ぐ方法を見つけ、私たちにできることを発信しよう。						
	12	情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化について調べる。 ・ 自然災害を防ぐための世界的な取組について調べる。 ・ SDGs について情報を集める。 ・ SDGs における地球温暖化への取組と関連した内容について情報をまとめる。 ・ 発表するグループに分かれ、より詳しく情報を集める。 			○	・ 目的に応じて情報を集めようとしている。(行動観察・ワークシート) 目②	
	13						
	14						
	15						
	16		整理・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに、調べた内容をもとにどんなことを発表していくか考える。 ・ プレゼンテーションの形式にまとめる。 	○		○	・ 世界的な諸課題の解決に向けた持続可能な方法について理解している。(ワークシート) 知②
	17						
	18						
	19						
20							
21							
22	まとめ・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作成したプレゼンテーションを模擬発表する。 ・ 内容を修正する。 				○	・ 整理した内容をもとに根拠を明らかにしながら作品を作成している。(プレゼンテーション) 思②	
23							
24	実行 <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化祭で発表する。(後日、熊野町立熊野中学校にも発表する。) 				○	・ 見いだした課題に対して自分なりに考え、意見を伝えようとしている。(行動観察) 目①	
25	振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化祭でのアンケート(または熊野中学校からの感想)を見て、学んだことを振り返る。 ・ 作成する上で気を付けた点や、学習を通して自分自身が気付いた点などをまとめる。 ・ 次なる課題に向けて、どんなことを学びたいかまとめる。 	○			○	・ 防災・減災の実現や世界的諸課題の解決に向け、主体的・協働的に貢献しようとしている。(行動観察) 目③	
						○	・ 世界的な諸課題の解決に向けた持続可能な方法について理解している。(ワークシート) 知②

第三次	26	<p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豪雨災害を防ぐため、SDG sの取組を地域に広める方法を考える。 			
	<p>課題③ 「Change the future プロジェクト」～みんなでやろう“天応SDG sウィーク”～を実施し、地域でSDG sに取り組もう。</p>				
		<ul style="list-style-type: none"> ・“天応SDG sウィーク”での取組内容をグループに分かれて考える。 	○	<p>第二次では、ゴール②・⑩・⑬・⑭の4つのグループ（1グループ8人程度）に分かれて発表した。それぞれをさらに2つに分け、計8グループ程度に分かれることを想定している。</p>	
	27	<p>情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、日常生活ではどんな取組方法があるのか調べる。 ・グループごとに、「やってみようと思える」“天応SDG sウィーク”での取組案を決める。 ・グループごとに考えた取組案を、各自で試行する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で取り組めるSDG sの方法について理解している。(行動観察・ワークシート) 知③ <p>【やってみようと思える】視点</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分たちの実生活の中でできそうなこと ②簡単な（または少し頑張ればできそうな）こと ③おもしろそうな（興味が湧くような）こと 	
	28	<p>【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに取組案を実際にやってみて分かったこと（成果、課題やその原因、家族の感想等）を整理する。 ・より「やってみようと思える」内容に修正する。(探) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じて調べたことや分かったことを整理し、自分なりの考えを表現している。(行動観察・ワークシート) 思① 	
29	<p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“天応SDG sウィーク”をどのように地域に発信するか考える。(探) 		<p>【発信先や発信方法として想定しているもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発信先：支所・自治会・天応小中学校の各家庭 ②発信方法：口頭説明・チラシ・ホームページ 		
30	<ul style="list-style-type: none"> ・“天応SDG sウィーク”の実現に向け、外部専門家からアドバイスをもらうために、自分たちの考えをまとめる。 		<p>【外部専門家として想定している人材】 環境保全アドバイザーの青山さん 呉市在住で、地域の食品ロス削減料理教室などの講師として活動されている。</p>		
31	<p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家に自分たちの考えを発表する。 				
32	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家の意見・指摘を参考に、“天応SDG sウィーク”の取組や発信方法を決める。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・見いだした課題に対して自分なりに考え、意見を伝えようとしている。(行動観察) 目① 		

33	<p>実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“天応SDG s ウィーク”を行う。 ・取組の成果と課題をまとめる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に提案したSDG sの活動に取り組んでいる。(ワークシート) ㊦③
34			
35	<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Change the future プロジェクト」全体の振り返りをする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災の実現や世界的諸課題の解決に向け、主体的・協働的に貢献しようとしている。(行動観察) ㊦③

4 本時のルーブリック

観点	思考・判断・表現		
評価規準	①相手や目的に応じて調べたことや分かったことを整理し、自分なりの考えを表現している。㊦①		
ルーブリック	A	B	C
	“天応SDG s ウィーク”の取組案について、実際にやってみて分かったことを整理し、複数の根拠をもって、より「やってみようと思える」修正案を考えている。	“天応SDG s ウィーク”の取組案について、実際にやってみて分かったことを整理し、根拠をもって、より「やってみようと思える」修正案を考えている。	“天応SDG s ウィーク”の取組案について、実際にやってみて分かったことを整理したり、根拠をもって、より「やってみようと思える」修正案を考えたりすることができていない。

5 本時の展開 (本時 28/35)

(1) 本時の目標

“天応SDGsウィーク”の取組案を実際にやってみて分かったことを整理し、より「やってみようと思える」内容に修正することができる。

【育成を目指す資質・能力】思考力・判断力・表現力

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点	◎ 評価規準 (評価方法) ◆ 「努力を要する」状況と判断した児童生徒への手立て
つかむ	課題の設定 1 本時のめあてを確認する。		
	(めあて) “天応SDGsウィーク”の取組案を実際にやってみて分かったことを整理し、より「やってみようと思える」内容に修正しよう。		
確かめる・深める	情報の収集 2 グループごとに取組案を実際にやってみて分かったこと(成果、課題点やその原因、家族の感想など)を共有する。	◇ ロイロノートを使い、情報を共有させる。 ◇ 共通するものはひとくくりにするなど、分類しながら共有させる。 ◇ 日常生活における各自の環境の違いに配慮しながら共有させる。	
	整理・分析 3 ④課題点を整理し、より「やってみようと思える」内容となるよう修正する。	◇ シンキングツールを活用しながら考えさせる。 ◇ どのような視点で話し合うとよいか問いかけ、取組案を考える際の視点で話し合えばよいことに気付かせる。	◎相手や目的に応じて調べたことや分かったことを整理し、自分なりの考えを表現している。 (行動観察・ワークシート) 思① ◆シンキングツールの内容を確認しながら、思いを引き出す。 ◆同じグループ内の生徒の意見を参考にさせる。
	まとめ・表現 4 各グループで考えた取組案を発表し合い、お互いの取組案に対して意見や質問を伝え合う。	◇ ゴールが同じ2つのグループで伝え合わせる。 ◇ 他のグループの取組案がより良くなるように、やさしく具体的に、役に立つ内容を伝えさせる。	
	5 再度、取組案を検討する。	(深い学びにするための「しかけ」) 各グループの取組案について、そのグループ以外の生徒から意見や質問を言わせることで、内容をより多面的に考えさせる。(例：改善策として、料理メニューではなく、色々な食材を捨てなくてすむ活用法を発信する→なぜメニューではなく、食材の活用法なのか など)	

振 り 返 る	6 本時のまとめをする。	◇ 本時を通じて分かったことや、何をすることが大切なのか、何を必要があるのかなどをまとめさせる。	
	<p>(まとめの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが考えたメニューでおいしく食べることができ、食品ロスを少し防ぐことができたと思う。メニューを一つだけでなく、いろいろなメニューをまとめたレシピ本のようにして発信するとよい。 その日に冷蔵庫に残っている食材が違うので、家族からは「食品ロス対策メニューというよりは、食材ごとに残さず活用できる方法を発信した方がいい」という意見が出た。たとえば、キャベツの芯のおいしい活用法など。「日によって食材が違う」「食品の活用法が知りたい」という意見から、自分たちは料理の「メニュー」を発信するよりも、「食材の活用ガイド」のような形の方がいいかもしれない。 		
	7 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	◇ 今後の学習に向けて、学びたいことや集めた情報などを考えさせる。	
	<p>(振り返りの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃料理をすることがなかったので、実際にやってみると、考えていたことがその通りにならなかったことがあった。まずは取り組んでみて、そこから改善していくことが大切だと思った。 家族と一緒に取り組むと、自分では思い付かなかったアイデアが出てきた。周りと協力してSDGsに取り組んで、いろんな意見を出しながら、良い取組にしていきたい。 		

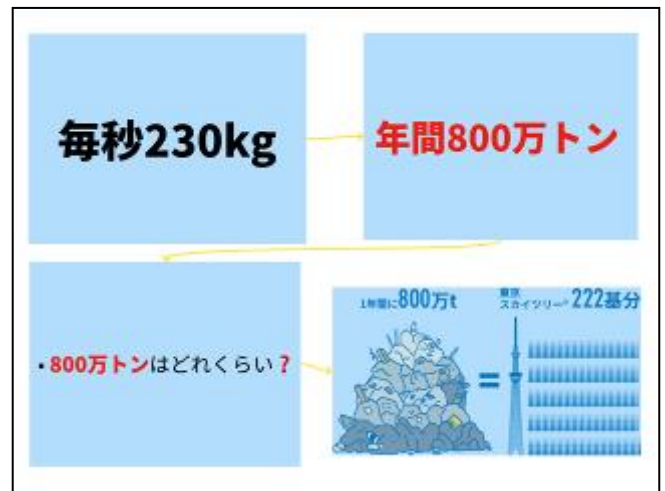
6 育成を目指す資質・能力に関わる生徒の変容及び成果と課題

(1) 生徒の変容

- 文化祭や熊野町立熊野中学校とのオンライン交流会を通じて、「実際の気温上昇のデータをもとに、自分の考えを言うように意識できた」「防災について、自分たちにできることをもっと考えたい」「自分たちだけがやればいいのではない、たくさんの人と協力して何かできる方法はないか」と考える姿が見られるようになった。(主体的に学習に取り組む態度③)
- 話し合い活動の中で、「どうやったらもっと簡単にできるかな」「自分たちだけでもう1回やってみよう」「なんでそうやろうと思ったの」などのやり取りが自然と行われるようになった。(主体的に学習に取り組む態度①)
- 令和3年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙の各質問項目における肯定的な回答が、次のように変容した。(思考・判断・表現①, 主体的に学習に取り組む態度③)

質問項目	前 (5月)	後 (12月)
(32) 「(1, 2年生のときに受けた授業で,) 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していましたか」	54.6%	82.3%
(25) 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」	54.5%	88.2%

- 次のように、実際のデータを根拠にしながら自分の考えを導き出したり、収集したデータを聞き手に分かりやすく伝えるために自分なりにデータを変換したり他の何かに置き換えて考えたりすることができるようになってきている。(思考・判断・表現②)

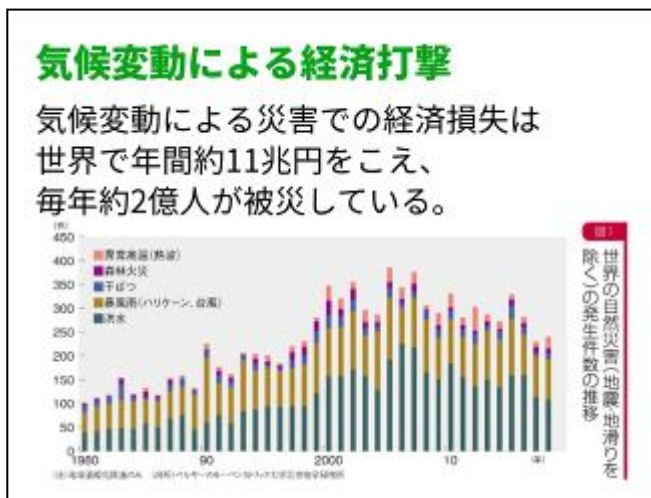


(2) 成果

- それぞれの課題において、「課題の探究サイクル」を繰り返し行いながら、自分たちの考えをまとめ発表する場面がある単元構成にすることにより、生徒は主体的に考え新たな問いを見だし、意欲的に探究課題に取り組むことができた。
- ロイロノートの共有ノートを活用することで、お互いの考えを参考にしながら改善策などについて、考えを深めさせることができた。
- 単元の評価規準に示す「相手や目的に応じて調べたことや分かったことを整理し、自分なりの考えを表現」したり、「整理した内容をもとに根拠を明らかにしながら作品を作成している」姿につながる学習活動をしたりすることができた。

(3) 課題

- 次のように、根拠となるデータをもとに考えを導き出そうとしているが、自分たちが伝えようとしていることと参照しているデータが合っていない場合があった。



伝える内容は「災害による経済損失に関する情報」や「被災者数」だが、参照しているデータが「災害ごとの発生件数の推移を表すグラフ」となっている。

- 「相手意識 (発信する相手をだれ・どこにするか)」をもたせるよう、「天応小学校の児童」や「自分たちの保護者」など、対象をより具体的にする必要があった。